

Woodist Report

2013年冬季 第14号

発行 平成25年1月1日

ウッドイストのたより

@woodist
www.woodist.co.jp



医療法人純青会 せいざん病院様(新築工事)

新病院を木造で作りたかった理由のひとつは、木材の温かさや香り。
癒しの要素です。

病を癒す効果も期待できるのではないのでしょうか。
窓から海が見える病室、患者さんがいつも安心できる良い環境を実現し
島のみなさんに、本土にひけを取らない医療を提供したいのです。

山佐木材株式会社

せいざん病院様新築工事

設計監理:ゲンプラン設計株式会社様

総合施工:坂本・久永特定建設工事共同企業体様

鹿児島市から南へ約120km、大隅海峡に位置する離島種子島・西之表市。海岸線を望む高台の中学校跡地に今年3月の落成を目指して、木造による大規模な病院の建築が進んでいます。使用する木材は、構造集成材、床用積層パネル、構造用製材（KD材）等併せて約1,000㎡、内種子島産スギ材約500㎡です。

建築主の医療法人純青会 せいざん病院理事長、田上容正先生にお話を伺いました。



田上 容正先生

◆新病院建設の経緯と概要についてお聞かせ下さい

まず初めに、様々な皆様とのつながりをいただき、今回の新病院建築事業が、わずか一年二ヶ月で実現できたことに感謝いたします。

せいざん病院は、種子島で唯一の精神科病院です。統合失調症や認知症、アルコール依存症、うつ病などの患者さんの心身の健康の回復を導き、その人本来の生き方・暮らしに再度踏み出していかれるよう医療、支援に当たっております。

既設病院の老朽化による医療サービスの低下が懸念されたため新築計画に着手しました。閉校した市立中学校跡を譲り受け、再利用するための校舎改修と、病棟新築の設計をゲンプランさんに委託したのです。

新病院は、三棟に分かれています。

ます。旧校舎を改修し、一階は病院管理棟として、二階フロアは、各種研究をおこなえる場所とすることにしており、手始めとして、島特産の薬用植物を食療法に活用する研究を進めていくことになっていきます。また、旧体育館は作業療法棟として活用するために改修していますが、地域の人たちとの交流の場にもなっていくものと思います。

そして、新築の病棟は木造二階建てでの設計をお願いしました。130床、5,000㎡を超える規模の木造建築の病院は県内では前例がなかったのではないのでしょうか。



◆木造にされたのはどのような理由からでしょうか。

木造にした理由は、まず、木の持つ香りや温かさには、快適な室内環境を作り出すばかりではなく、ひとの気持ちを落ち着かせてくれる効果、癒しの要素があるからです。



患者さんの病を癒す効果も期待できるのではないのでしょうか。

それから、「かごしま材利用推進事業」による補助事業に採択されたことで、建設費の助成を受けることができました。種子島には豊かな自然にはぐくまれた杉材が潤沢にあります。こういった事業で地元の木材利用が進めば、伐採から建設までたくさんの人びとがかかわってくることになり、島の産業全体の活性化への一助となれるのではと思っています。

◆先生の地域医療に対するお考えをお聞かせ下さい。

昭和四十四年開業以来、私が持ち続けてきた病院運営の理念は、「種子島の人びとに奉仕し、本土にひけを取らない医療を提供する。」ということです。これまで、いろいろ印象深いことがある中で、人工透析ができるようになったこと、開腹手術、開頭手術、骨折手術及び白内障などの眼科の手術が県本土まで行かなくても可能になったことなどがあげられると思います。しかし、医療現場では残された課題はまだ山積しています。

島で暮らす人びとが秒進分歩の医学の進歩に取り残されることのないよう、安心して、いつでも十分な医療が受けられるようこれからも力を尽くしたいと思います。（談・表紙の言葉も）



聞き手…佐々木幸久
参考…『織りなす言の葉』
田上容正先生著

木造による大規模病院建築

「公共建築物等木材利用促進法」が施行され2年が経過。国では、木材の利用度を広げるべく建築に関する法律などの見直しも進められ、また、各地方自治体においては、利用のための基本方針が策定され、助成金制度による利用促進も実施され始めました。このような流れの中で、せいざん病院様新築工事の設計・監理をされているゲンプラン設計(株)増山英樹社長に、この建築物に関する技術的なお話をお聞きしました。

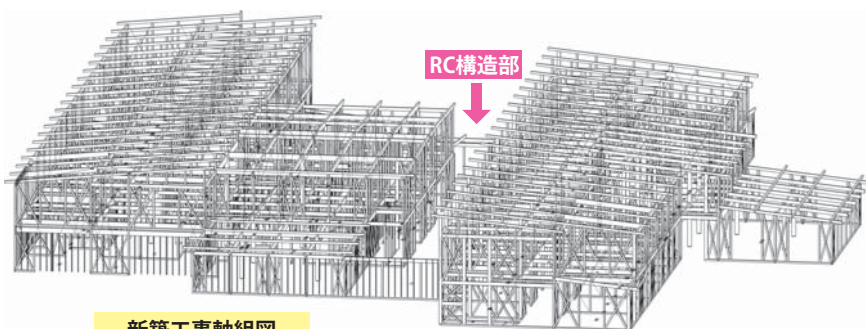


増山 英樹社長

田上先生は患者様をとにかく第一にお考えになります。様々な症状を持つ患者様に対応するための病室の配置や、医療サージャイスの軸となるナースステーションの位置、それらをつなぐ動線の変化などの課題を、病院の方々と検討を重ねる。そして、それと木造軸組のスパンとの折り合いを付けていく。お客様の希望と設計上の制約を両立させることに、担当者を先頭に力を結集して当たりました。

今回、全国的にもあまり前例のない、延べ面積5,312㎡の木造病院の設計に携わらせていただきました。大きな課題として、第一に病院が目指しておられる医療サージャイスを提供するための設計プランの構築、第二に建築基準法を初めとする法的な問題のクリア、第三に木造化のための材料選択の検討がありました。

大規模な木造建築物の主要構造部は、防火のため、建物高さ(13m以下)と軒の高さ(9m以下)延べ面積(3,000㎡以下)の制限を受けます。せいざん病院は、高さ制限は二階建てとしてクリアしました。一方延べ面積5,300㎡を超える規模が必要なため、中央を一部RC造とし、三棟を別棟と見なすことで面積制限を回避しています。



新築工事軸組図

また、病院は火災に対する防火措置として、準耐火構造としなければなりません。壁や、天井に使われている木材を強化石膏ボードなどで防火被覆せざるを得ず、見えなくなってしまうことは少し残念な気がしますが、また、内装制限も受けるので、スギ板腰壁と床フローリングが現れるだけとなります。しかし、現行の建築基準法の範疇で大規模な木造化を図るには、木材を現しにすることとらわれないで済まないことだろうと思われまます。



1階天井部

木造化の材料として、軸組は大断面集成材と構造用乾燥製材で構成し、床材にスギ板を小端立て積層したパネル(厚120mm×幅800mm×長さ6m)を採用しました。これをスパン3mの受け梁上に並べ、専用の木ねじで止めて行くだけです。床材としての十分な強度と、タイトな工期に対応する施工性能を確保できました。

これから、工事は仕上げに入っていきますが、安心してお使いいただける建物をお引き渡したいと思っています。(談)



床用積層パネル

聞き手：前田 和浩



ヨーロッパ発のCLTが国産化へ

山佐木材株式会社
代表取締役 佐々木 幸久

木材は繊維方向には大変強いのですが、それと直交する方向には極めて弱い性質があります。木材の「異方性」と呼ばれるもので、この性質を軽視した不適切な加工や使い方をすると、割裂などの破壊が起きることがあります。

CLTは木材の板を直交させて何層も接着させて作ることで、この異方性が解消されます。しかるべき設計に基づき適切な施工を行えば、これまでの木造建築にさらに大きな展開が期待出来ます。



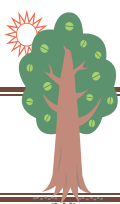
▲国産スギ CLT のサンプル



欧米で我が国では考えられない多層階の建物（たとえば9階建てなど）が既に建てられています。木工機械メーカー太平製作所の成田会長様から、風力発電施設の巨大なタワーがCLTで建設されている事例を自分の目で見てきたとお知らせ戴きました。

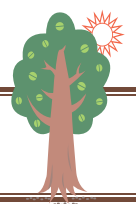
我が国でもこの新しい材料の供給体制が整いつつあり、またもう少し時間はかかるかもしれませんが、法的な整備など利用出来る条件も整っていくものと思われれます。既存のノウハウや技術に、さらにCLT構法が加わって、建築の可能性が大きく広がるものと期待されます。

◀防災科学技術研究所とイタリア国立木材研究所による7階建木造建物の震動台実験(写真 防災科学技術研究所)



トピックス

日本CLT協会 CLTセミナーを開催



2012年11月30日 法政大学市ヶ谷田町校舎5階マルチメディアホールにおいて、CLTセミナーが開催されました。

このセミナーは、CLTの啓蒙・普及を目的として、第1部はイタリア国立樹木・樹林研究所所長アリオ・チェコッティ氏による「地震に強いCLT木造構造物」と題する講演、第2部は8名のパネラーによるパネルディスカッションで構成されていました。当日は会場が満席(134名)となる盛況ぶりで、CLTへの関心の高さを感じました。詳細は追って報告いたします。



集成材・木造建築に関するお問い合わせは…

Woodist® **山佐木材株式会社**

〒893-1206 鹿児島県肝付郡肝付町前田 972 番地
TEL0994-31-4141 FAX0994-31-4142
<http://www.woodist.co.jp/>